

## 川崎市川崎区市民提案型協働事業審査委員会 摘録

日時：令和7年2月13日（木）

午後1時～午後5時

場所：川崎区役所12階第1会議室

出席者（敬称略）

委員：佐谷和江委員長、石井芳和委員、長田英史委員、鈴木奈穂美委員

実施団体：NPO法人姿勢教育の孝心会、株式会社EMISORA、株式会社まつ乃家、川崎あそび宿、川崎区地域教育会議、一般社団法人グローバル文化協働支援センター、いきがい工房さらら

所管課：危機管理担当、企画課、地域振興課、生涯学習支援課、地域ケア推進課、地域支援課、保育所等・地域連携担当、道路公園センター

事務局：企画課

傍聴者：なし

### 1 開会

- ・事務局から、資料確認、会議の成立を確認

### 2 令和7年度提案事業の審査

#### (1) 審査方法について

- ・事務局から、審査の進め方について説明

#### (2) 会議公開の確認

- ・事務局から、公開及び非公開内容の確認

#### (3) 提案団体による提案内容説明（10分／団体）

提案1	子どもまちびらき大作戦
提案団体	NPO法人姿勢教育の孝心会
所管予定課	企画課

#### 提案団体への質疑

鈴木委員 令和6年度は紙のチラシで広報していたようだが、令和7年度はSNS等の利用も考えているか。

提案団体 SNS等の利用も考えているが、イベント情報を掲載した「まちびらき通信」を小学校に配布しようと考えている。

鈴木委員 「まちびらき通信」は紙媒体か。

提案団体 そのとおりである。今は、コミュニティハウスさくらに配架する程度だが、令和7年度は早めに制作して各学校に配布を協力してもらいたいと考えている。

- 石井委員 子どもたちにアンケートをとって、その中から実現可能な良い提案をイベント等の形にしていくということだが、採用されない意見について、どのように対応しているか。
- 提案団体 特に実現可能なものを実施しているところである。発表はしていないが、ごみ拾いをゲーム化した鬼退治ごみ拾いなど、SDGs公園には、いくつかの意見が含まれている。現実的に不可能な意見も多い。
- 石井委員 採用されなかった意見について、子どもたちから不満の声はあるか。
- 提案団体 子どもたちには今すぐにはできないこともいつかはできるかもしれないという話をしている。例えば、「東田公園に発電ができるような遊具をつくりたい」という声については、今すぐには実現できないが、その子が大人になって開発するかもしれない。できないと決めつけずに、勉強を促すなど、今後につながる話をしている。
- 石井委員 予算について、会場賃借料の割合が高いが、自走することになった場合に懸念されると思うが、なにか考えているか。
- 提案団体 現在、毎週日曜に施設を確保しており、雨が降った場合でも活動を実施しているが、雨天中止とする対応も検討している。収益という面では、企業や協力団体から活動を続けてほしいということできざまな提案がされているが、NPO法人であるため、物品販売ができない。その点を踏まえて今後検討していきたい。
- 長田委員 「まちをより良くする」や「子どもたちの意見を取り入れる」ということを聞くと、それは良い取組であると思うが、子どもたちの声を聴くといっても、それが本当にまちを良くすることになるのか、あるいは、まちを良くすることとは正反対の意見も当然出てくると思う。このような場合に、まちをより良くするというようなことだと考え、どのような基準で子どもたちの意見を評価しているか。
- 提案団体 活動する前や活動中には、自分たちの取組がSDGsの目標に該当するか互いに確認している。
- 長田委員 基準はSDGsの目標に該当するかどうか、ということか。
- 提案団体 そのとおりであるが、すべてを実現するとは言っていない。
- 長田委員 それは理解しているが、なにをもって良しとするか誰かが判断する必要がある。主体が誰なのかわかにくいところもある。なにかあったときに責任を負うのはプレゼンをした学生か。
- 提案団体 姿勢教育の孝心会である。
- 長田委員 では、プレゼンをした学生は、プログラムの参加者ということか。本来であれば企画の主体となる人がプレゼンをするべきだと思うが、学生はプログラムの参加者か構成員か。

- 提案団体 構成員である。学生はスタートの時点でブレーキをかけてしまうと、アイデアを出さなくなってしまうので、実現不可能なアイデアも募集し、それらはポジティブな形に直している。
- 長田委員 誰がポジティブな形に直しているのか。
- 提案団体 基本学生であるが、団体の代表者や学生ボランティアから理事になった人なども対応している。
- 佐谷委員 ソーシャルデザインセンターの活動と子どもまちびらき大作戦は関連性があるか。
- 提案団体 まちびらき隊は、ソーシャルデザインセンターモデル事業の時に立ち上げたものである。その後、ソーシャルデザインセンターとしてではなく、まちびらき隊としての活動ということで、いきいきかわさき区提案事業に応募した。ソーシャルデザインセンターとしては、地域の人がやりたいことを応援するような活動をしているが、中にはまちびらき隊と連携したいという話もある。一方で、まちびらき隊と連携した人には、ソーシャルデザインセンターの活動を案内している。
- 佐谷委員 助成がなくなったときを見据えながら、どういう関係性で実施していくか検討してほしい。

提案2	～こどもと大人の自分らしく生きるを応援する～らしく Ru
提案団体	株式会社EMISORA
所管予定課	地域ケア推進課、地域支援課、保育所等・地域連携担当

#### 提案団体への質疑

- 石井委員 昨年から有料化を図り、キャンセルが減ったという話があったが、令和7年度からは18,000円と金額的には高額になると思うが、集客方法についてどのように考えているか。
- 提案団体 1期生は無料にしたが参加率が低く、課題や宿題をやってこない人がいた。また、令和6年度は受講者が18人おり、対面での開催にもかかわらず参加率が低く、全く参加しない人もいたため、これからは少し値段を高くして、より熱意のある人をしっかりみられるように10人程度の小人数の枠にして実施したい。
- 石井委員 応募はあるという見立てでよいか。
- 提案団体 企画内容から考えると、価格は決して高くないと思う。定期的で開催しているオンライン交流会など、オンラインの仕組みづくりとSNSの発信から参加してもらおう流れをつくりたい。また、以前は人数も大事だと考えていたが、運営側の中心となるメンバーを5～6人育てたいので、小人数での開催かつ18,000円という価格を設定した

- 鈴木委員 集客については、どの企業や団体も大変なところだと思うが、18人集めるためにどのようなことをしたか。
- 提案団体 やれることはすべてやったつもりである。1～2か月間はチラシ配架に協力してもらうため、市内各施設を訪問した。また、交流会などに参加し、興味のある人に連絡をした。1年目は、ファミリーイベントの後に「みらくRuスクール」を開催したので、ファミリーイベントのつながりで参加者が集まったが、今年は、ファミリーイベントと「みらくRuスクール」を同時に募集したので、なにもない状態で集客をするのはすごく大変だと思った。
- また、参加してほしい人にはその人だけに向けた動画メッセージを作成して送り、申込に至ったケースも多くあった。広く広報することと、参加してほしい人にはダイレクトに届けることの組み合わせが大事だと思う。
- ソーシャルデザインセンターなどの団体にチラシを配架してもらった。
- 佐谷委員 ファミリーイベントについては、有料化によって満足度が向上した一方で、令和7年度のファミリーイベントと子育てサロンについては、参加費を無料としているが、それはなぜか。
- 提案団体 子育てサロンはトライアルという形で、「みらくRuスクール」の卒業生が実践の場で行うため、無料としている。ファミリーイベントは大きなイベントであるため、来場は無料として、一部有料のコンテンツを用意する方向で検討している。
- 佐谷委員 ファミリーイベントについて、来場無料とし、一部有料のコンテンツを用意することで、キャンセルは減少するのか。
- 提案団体 無料の子育てサロンを開催したときは、参加者がたくさん集まったが、キャンセルが10組以上あったため、無料化すると、キャンセルが増えると思う。今後子育てサロンを2回やるが、その先は有料化も検討していきたい。ファミリーイベントについて、入場費を無料とするが、イベント内で当日参加するものについての費用を負担してもらい、ハードルを下げながらも広く参加してもらい、いろいろな団体と連携できるようにしたい。
- 長田委員 区役所との連携具合はどうか。
- 提案団体 所管課と連携しての集客もそうだが、イベントに参加してもらって保護者と直接話したり、区役所の職員から参加者に直接情報を提供してもらえるとすごく喜ぶのでそういうところで連携できるとよい。
- 石井委員 300人規模のイベントを開催する目的を伺いたい。また、それを今後どのように活かしていくのか。
- 提案団体 子育てサロンの中で希望者を募り運営しているが、それぞれやりたいことが違う。ワークショップで手作りのものを親子で作って販売したいという人がいれば、講座をやりたい人もいる。それを実現するためには、大きなイベントで

ブースをつくって実施するのが一番良いと思った。また、企業とプロモーションや協賛等で連携できるように体制を整えたい。

提案3	より道伝統体験
提案団体	株式会社まつ乃家
所管予定課	地域振興課

#### 提案団体への質疑

- 長田委員 事業を実施する中で迷ったときに相談できる場所はあったか。
- 提案団体 地域振興課には協力してもらったが、商店街など地域の方々との連携はなく相談できなかった。
- 長田委員 独自開催とせずに、いきいきかわさき区提案事業にエントリーした理由は何か。
- 提案団体 芸者業は、夜のイメージがあるが、子どもたちにも芸者業を含めた日本の文化を伝えていきたいと考えている。独自開催とすると、大人へのネットワークに頼ってしまう。いきいきかわさき区提案事業を活用することで、学校へのチラシ配布が可能になり、公の事業となるので参加してみようと思ってもらえるのではないかと考えた。独自開催することは簡単だが、それでは自分がやりたかったことができないと思い、エントリーした。
- 石井委員 提案書上、メインターゲットをインバウンドとしており、それでは区の提案事業では少し薄いと思うが、プレゼンでは、ターゲットに子どもや親子なども含めるような話もあった。今回の対象は広げているのか。
- 提案団体 2月5日に行われた令和6年度いきいきかわさき区提案事業報告会で、地域の方々の活動を聞いて、インバウンドも大切だが、インバウンドを広めてくれるのは地域の方々であり、地域の方々に文化や伝統芸能を見てもらい、ファンになってもらうことで、インバウンドが成立すると考えるようになった。インバウンドに挑戦するだけであれば、いきいきかわさき区提案事業を活用する必要はなく、この事業を活用するのは地域のファンや土台をつくりたいからである。子どもを対象としたがうまくいかなかったため諦めかけたが、報告会を聞いて、熱量をもって地域を盛り上げたいという人がたくさんいることを知り、子どもたちに伝えたかったという思いをもう一度大事にしたいと思った。
- 鈴木委員 伝統芸能と川崎の郷土の歴史を通じて、シビックプライドの醸成を目指した事業であると感じた。外国人観光客に重きを置いた提案だが、これまでの思いから子どもを対象にやりたいという熱意も伝わってきた。昨年度は課題があったということだが、今年度はどのようにして子ども世代に訴求していくのか。

提案団体 地域に根差すということだと思う。令和6年度は東海道かわさき宿交流館の3階で開催したが、令和7年度は1階で開催し、外から見てわかるようなところで開催したいと考えている。

佐谷委員 予算について、印刷製本費が250,000円と高額であり、また、英語翻訳の予算も計上しているが、どのような広報をしたいと考えているか。

提案団体 令和6年度は小学校へチラシを配布できなかったことが大きな課題と考えている。令和7年度は、通年でのイベント案内を掲載した見開き程度の冊子を地域の人が集う場所に置いてもらいたいと考えており、その制作費用を計上している。

佐谷委員 目的が大きく変わってしまった気がする。

提案団体 先日の報告会で学生が発表している姿やシニアの方が頑張っている姿をみて感動し、子どもたちに伝えたいという初心に戻ろうと思った。

提案4	川崎あそび宿
提案団体	川崎あそび宿
所管予定課	地域振興課

#### 提案団体への質疑

鈴木委員 令和7年度は、より語りに重きを置いた提案だったと思うが、語り手は高齢者であり、連携予定団体であるNPO法人かわさき歴史ガイド協会となるのか。

提案団体 令和6年度にわらべ歌コンサートやワークショップを開催したとき、わらべ歌がどのようにしてできたか、江戸時代の頃の話に重点を置いて、川崎あそび宿が語り手となった。また、同時にプロの歌手とワークショップを行った経緯があるため、令和7年度も、関係者との連携を深めていきたい。

鈴木委員 コン서트以外に打ち水体験などの時間にも語りの要素を盛り込んでいくということか。

提案団体 そのとおりである。令和6年度に行ったイベントの打ち水体験などについては、運営側である川崎あそび宿が語り手となった。

長田委員 川崎あそび宿の会員は何人いるのか。

提案団体 書類を提出した時点では5人だったが、その後2人増えて7人となった。

長田委員 予算について、収入が川崎市からの経費のみとなっている。この収入がなくなってしまうと事業そのものがなくなってしまうのではないかと心配しているが、どのように考えているか。

提案団体 今後川崎の歴史を伝えていく上で、ペーパークラフトを用いて保育園や幼稚園、インターナショナルスクールで遊びを伝える機会をつくっていききたいと考えており、謝礼があればそれで補っていききたい。

長田委員 謝礼がないと難しいということか。

提案団体 イベント開催時には参加費を徴収して実施できればと考えている。

石井委員 折り紙カフェは毎月1回実施しているのか。

提案団体 そのとおりである。折り紙カフェは、川崎あそび宿よりも難しいものを取り扱っており、そこで作成したものは参加者に差し上げている。難しい折り紙をこなす満足感と作成したものを持ち帰れる楽しさを大切にして、高齢者を対象に実施している。長期休みには、地域の子どもたちを交えて行うこともある。

佐谷委員 交流館フェスと川崎あそび宿にはどのような違いはあるか。

提案団体 違いはなく同じものと認識している。

佐谷委員 交流館フェスは、いろいろな団体が参加するものだと思っていた。

提案団体 そこまでつなげていけたらよいと考えている。川崎あそび宿独自ではなく、東海道かわさき宿交流館を含めて、いろいろな団体を交えて開催できればと思う。

佐谷委員 主体は誰になるのか。

提案団体 主体は実行委員会のような形をとり、いろいろな団体に参加してもらえたらと考えている。

提案5	ウェルカム原っぱ in 富士見公園(仮称)
提案団体	川崎区地域教育会議
所管予定課	企画課、道路公園センター

#### 提案団体への質疑

鈴木委員 プレーリーダーの養成についてどのように考えているか。

提案団体 特別に養成講座など計画していないが、高津区にある川崎市子ども夢パークのスタッフにレクチャーしてもらい、すぐにはプレーリーダーとならなくても日々学んでもらいながら養成していきたい。プレーリーダーには若者もなり得るが、今の若者は忙しいので、1年間を通して安定的に実施するためには、シニアも頑張らなければならないというのが現状である。

鈴木委員 川崎市子ども夢パークのスタッフにコアメンバーとして全面的に活動してもらい、川崎区地域教育会議はそのサポートに入るというイメージか。

提案団体 川崎市子ども夢パークのスタッフがプレーリーダーをやるということではない。川崎区地域教育会議が夢パークのスタッフからノウハウを学ぶ。

鈴木委員 すでにプレーリーダーの候補は何人かいて、さらに経験を積む必要があるということか。

提案団体 見守りという点では、それなりの体制をつくれると考えている。

鈴木委員 会場にはすでに土があるようだが、事業実施にあたり土も川崎区地域教育会議が用意しなければならないのか。また、処分費として30,000円もかかってしまうのか。

- 提案団体 土について、最初は想定されていなかったが、工事したときに小さい山のよう  
なものがあったほうがよいということで土の山ができた。できればもっと大  
きな土の山があればと思っている。また、トンネルに見立てた土管に少し土が  
被っていれば、スリルがあって子どもたちもやってみたいと思ってくれると  
思う。
- 鈴木委員 それは指定管理者ではなく、川崎区地域教育会議が用意してやるものなのか。  
提案団体 指定管理者と協議を行い、手配してもらった部分もあるが、指定管理者がすべ  
て費用を負担するという状況でもない。処分費については、ここまでかかるど  
うかわからず、あくまで見込みである。
- 石井委員 富士見公園にはすでに構造物が設置されており、道路公園センターの許可も  
とっていないという話を聞いているが、その点を伺いたい。また、遊具の安全  
性について疑義があると思っており、けがをした時の対応など、どのように考  
えているか。
- 提案団体 仮設のターザンロープ等を設置する際には、指定管理者と話をしており、年度  
内は試し運転のような形で設置している。他の公園と違い、フェンスで囲まれ  
ており、朝9時から夕方5時まで、夏場は夕方6時まで開放している。川崎区  
地域教育会議で設置した遊具は、見守りがいない状態で遊ばせるというこ  
とは想定しておらず、看板等でいつ使えるか案内する予定である。現在、設置  
している遊具については、令和6年度末で撤去し、改めて4月から設置する予  
定である。安全性については、チェックポイントがあると思うので、使う前に  
点検等を行い安全性を確認したい。
- 石井委員 保険には加入するのか。
- 提案団体 保険については、団体で加入している保険があり、賠償保険と傷害保険が適用  
されることを地域教育推進課に確認した。
- 石井委員 今設置しているものについて、指定管理者と話しているとのことだが、本件  
は公園内行為となるので、それに対する許認可が必要となる。今後新たに設  
置する際には、事前に道路公園センターと打合せを行い、許可をとっていただ  
く必要がある。
- 提案団体 認識不足だった。承知した。
- 佐谷委員 何日間開設する予定か。
- 提案団体 40日程度を予定している。

提案6	かわさきグローバルアカデミー第一期モデル事業
提案団体	一般社団法人グローバル文化協働支援センター
所管予定課	生涯学習支援課

提案団体への質疑

- 長田委員 ボランティア育成講座のメインターゲットはどのような人たちか。また、その人たちにどのようにアプローチしていくか。
- 提案団体 ターゲットは広く考えている。学ぶ側、教える側、サポートする側があるが、学ぶ側と教える側は若手でもよいと考えている。一方で、長くボランティア活動をされてきた人にも声をかけ、若い人につなげていきたい。
- 鈴木委員 いろいろな講座を考えているようだが、講座ごとに会場は想定しているのか。
- 提案団体 各施設にはそれぞれ特色があるので、その特色を活かして会場を設定していきたいが、中央地区がメインになると思う。
- 鈴木委員 会場を固定せずに、JDS交流会場を拠点にしつつ、講座を進める中でふさわしい会場を選んで展開していくということか。
- 提案団体 そのとおりである。
- 石井委員 30代～50代を対象としており、この世代は忙しい上に、受講料もそれなりの金額だが参加者は集まりそうか。
- 提案団体 受講料について、一般的なビジネススクールはもっと高いので、価格に見合う価値あるものとしていきたい。学童ジムについて、自分の子どもや孫が絡んでいると、保護者として参加してくれることもある。保護者の中には、才能のある人がいることもあるので、そのような人たちを巻き込んでいきたい。
- 石井委員 4月から動き出すことになっているが、令和7年度の採択事業なのでスケジュール通りにできるか。
- 提案団体 会場の調整はすでに始めている。4～5月頃に一度会議を行うことになっており、7月頃にサマースクールを開始できればと考えている。
- 佐谷委員 2か月程度の講座では学生同士のコミュニティができづらいと思う。出口戦略として、受講者がどのようにして活動を始めていくか考えているか。
- 提案団体 すでに活動している人も取り込みたい。また、地域活動を継続できなかった人やこれから始めたいという人にも参加してもらい、講座で互いに交流することで、活動につなげていければと考えている。
- 佐谷委員 地域活動を全くしたことがない人というよりは、少し経験している人向けか。
- 提案団体 ターゲットは広く考えている。新しい人材の発掘もあれば、くすぶっている人の発掘もあると思う。

提案7	防災マルシェ
提案団体	いきがい工房さらら
所管予定課	危機管理担当

提案団体への質疑

- 石井委員 区としても要援護者や障害者、高齢者などをどのように避難させ、どのように避難生活を送ってもらうか課題感があり、どこの場所にどういう人がいるか

もデリケートな情報となるため、その点も課題であると感じている。また、単独で防災マルシェを開催しても、参加者が集まらない可能性もあるが、区の防災訓練などにブースを出して実施することも可能だと思う。その点についてどう考えるか。

提案団体 6月頃に行われる会議でプレゼンをし、連携先を探そうと考えている。公園で散歩しながらでも参加できるような場所があればいいと思っている。おむすびカフェの近くで月に1回野菜を売りに来ているお店があるので、出店場所をマルシェの中にしてもらうなど、連携することで集客につなげていきたいと考えている。

鈴木委員 6月にまず1回目のイベントを開催し、その様子をみながら町内会に共同企画を提案し、年度の後半にもう一つイベントを開催すると思うが、いずれは防災マルシェという名前で開催したいということか。

提案団体 町内会との共同企画では、防災マルシェという名前を使わせてもらえるかわからないので、内容は変えずにブースを設けたいと思っている。

鈴木委員 予算では、ブースごとに謝礼が計上されているが、この謝礼は防災マルシェの中に「外国につながるコーナー」などを出店した人に対して支払うイメージでよいか。

提案団体 そのとおりである。ただ、一度やってもらって、興味をもった人が自分で主体的にやってくれれば、今後不要になると思う。  
防災マルシェは、興味をもってもらうための突破口であると考えている。防災マルシェのような場を設けて、少しでもいいので防災のことを知ってもらいたい。地域の中で興味のある人がいずれエキスパートとなっていくと思う。

#### (4) 審査

事務局から審査表の集計結果を共有し、得点順について説明。

#### (5) 閉会